

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 1 月 29 日

事業所名 Naulu

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題、改善すべき点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	0	国の基準である一人当たり、2.47㎡の広さを確保。課題によって場所を変え、発達を促せるよう努めている。
	2	職員の配置数は適切である	6	0	児童10人に対し、指導員2人という国の配置基準に加え、加算要件を満たす人員配置を行っております。専門性を備えたスタッフ配置にも努めております。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6	0	障がい特性に応じた支援により、発達を促したいため、最低限の視覚情報や、環境提供としている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6	0	一日数回の消毒と掃除を行っている。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	0	朝会、会議、フィードバックで全体に周知している。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	0	保護者の方からのご意見を大切にしている。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	0	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	2	第三者ではないが、専門知識のある職員のコンサルティングを受け、業務改善に努めている。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	0	各種勉強会への出席、不定期だが社内研修を行っている。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6	0	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	0	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6	0	日頃の支援やモニタリングを通して、保護者の方からのご意見やご要望を伺い、児童発達支援ガイドラインに基づいて、計画を作成するように努めている。必要に応じて、具体的な支援内容については、口頭で伝える機会をつくるようにしている。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5	0	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	0	一人ひとりが支援の内容を考え、出来るようにしている。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	0	子どもの特性や発達に合わせた支援になるようにしている。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	6	0	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	0	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	0	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	0	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題、改善すべき点など
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6	0	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	0	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4	2	見学希望の受け入れなどをしている。
	23	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	0	訪問等を行い共有しているが、さらなる向上に努めたい。
	24	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	1	訪問等を行い共有しているが、さらなる向上に努めたい。
	25	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	1	研修受け入れなどしている。
	26	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	2	3	今後、機会を増やせるよう努めたい。
	27	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	5	1	部会への参加をしている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	0	レッスン後のフィードバックや、相談支援等で理解を深めている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	6	0	保護者向け勉強会の開催等行っている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0	
	31	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6	0	
	32	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	0	
	33	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	2	レッスン中の待機場所の確保や保護者会、各種イベントでの交流を行っている。
	34	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0	要望に応じて、相談の場の用意、電話での支援を行っている。
	35	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	0	行事予定や連絡事項はLINEやホームページ等で行っている。
	36	個人情報の取扱いに十分注意している	6	0	施錠されているキャビネットで保管。使用後は、すぐに戻すよう責任を持って取り扱うよう努めている。
	37	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	0	共感、傾聴、受容に努めている。
	38	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	2	見学などはいつでも受け入れ、イベントお考えている、今後、機会をつくれるよう努めていく。
非常	39	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6	0	
	40	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	0	
	41	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5	1	契約時の情報、フィードバック時の情報等共有している。さらに共有の場を増やせるよう努めていく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題、改善すべき点など
時 等 の 対 応	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	0	食物アレルギーのあるお子さんを受け入れた場合には、指示書に基づいた対応を心がけたい。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	0	ヒヤリハットのファイルをキャビネットに保管し、いつでも見られるようになっている。ヒヤリハット事例があった場合には、会議での課題とし、同じことが起こらないように努めていく。
	44	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	0	研修などに行き、得た情報をスタッフ間で周知し、適切に対応していく。
	45	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6	0	契約時に同意してもらい、支援計画にも記載、、また行った場合は、その経緯、状況等を保護者に伝え、記録にも残している。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。